



国立研究開発法人 物質・材料研究機構
National Institute for Materials Science

NIMSのGreen OAとGold OA

物質・材料研究機構

小野寺千栄

ONODERA.Chie@nims.go.jp

2023年11月14日(火) 10:00-12:00

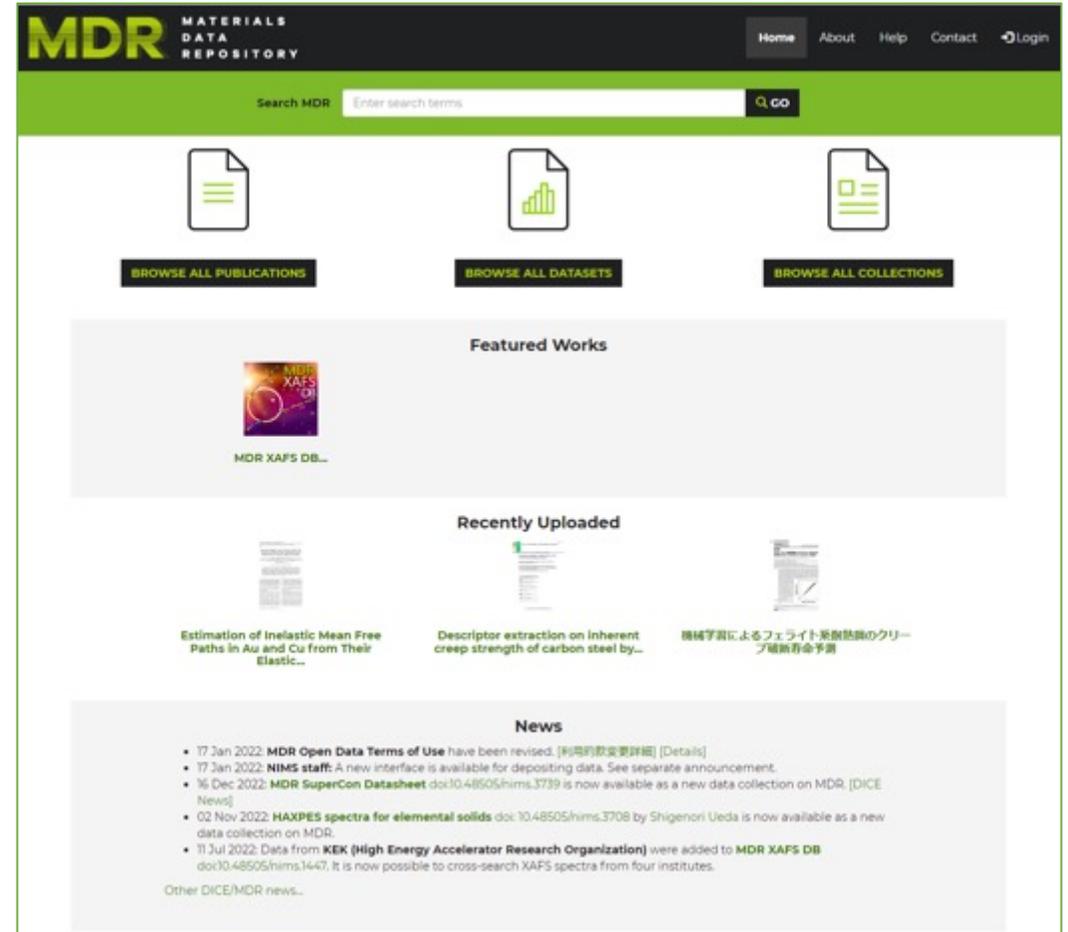
2023年図書館総合展

JST/CHORUSオンラインフォーラム：オープンアクセス政策下におけるモニタリングとコンプライアンスの実践

物質・材料研究機構（NIMS）について

- 国内で唯一の物質・材料科学研究の専門機関
- 職員数：約1,550人
 - 研究職：約600人
 - 大学院生：約150人
 - その他：約800人（エンジニア職、事務職など）
- 出版論文数/年：1,800～1,900報
※文献データベースで把握できる数
- リポジトリ：Materials Data Repository
 - 2020年6月から運用開始
前リポジトリからコンテンツ移行
 - 登録件数（2023年10月25日時点）
 - Publication：1,587件
 - Dataset：12,723件
 - 運用担当者：8～9名（全員併任）
- 図書館サービス担当者：3名

<https://mdr.nims.go.jp/>



The screenshot shows the homepage of the Materials Data Repository (MDR). The header includes the MDR logo, navigation links (Home, About, Help, Contact, Login), and a search bar. Below the header are three main navigation buttons: "BROWSE ALL PUBLICATIONS", "BROWSE ALL DATASETS", and "BROWSE ALL COLLECTIONS". The "Featured Works" section highlights the "MDR XAFS DB". The "Recently Uploaded" section displays three items: "Estimation of Inelastic Mean Free Paths in Au and Cu from Their Elastic...", "Descriptor extraction on Inherent creep strength of carbon steel by...", and "機械学習によるフェライト系炭素鋼のクリープ破断寿命予測". The "News" section lists several updates, including revised MDR Open Data Terms of Use, a new interface for depositing data, a new MDR SuperCon Datasheet, and new HAXPES spectra for elemental solids.

NIMS

研究部門

事務部門

技術開発・共用部門

材料データプラットフォーム

データ収集ユニット

1~4名

データ基盤ユニット

2名

図書館サービス担当

3名

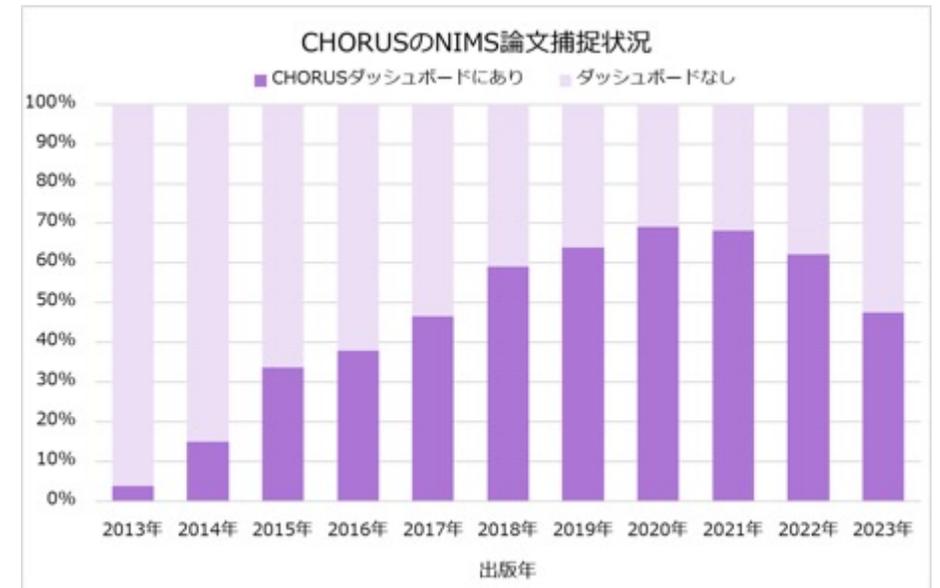
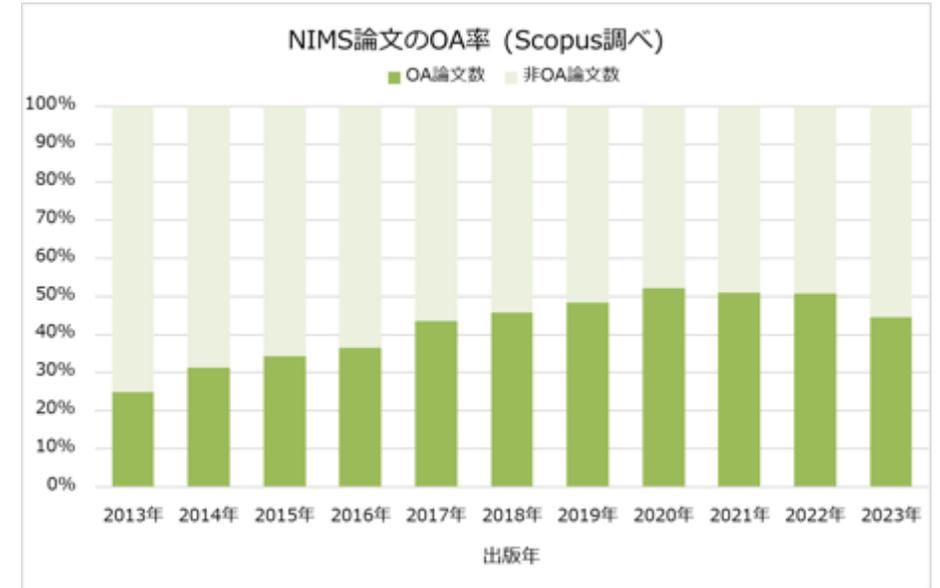
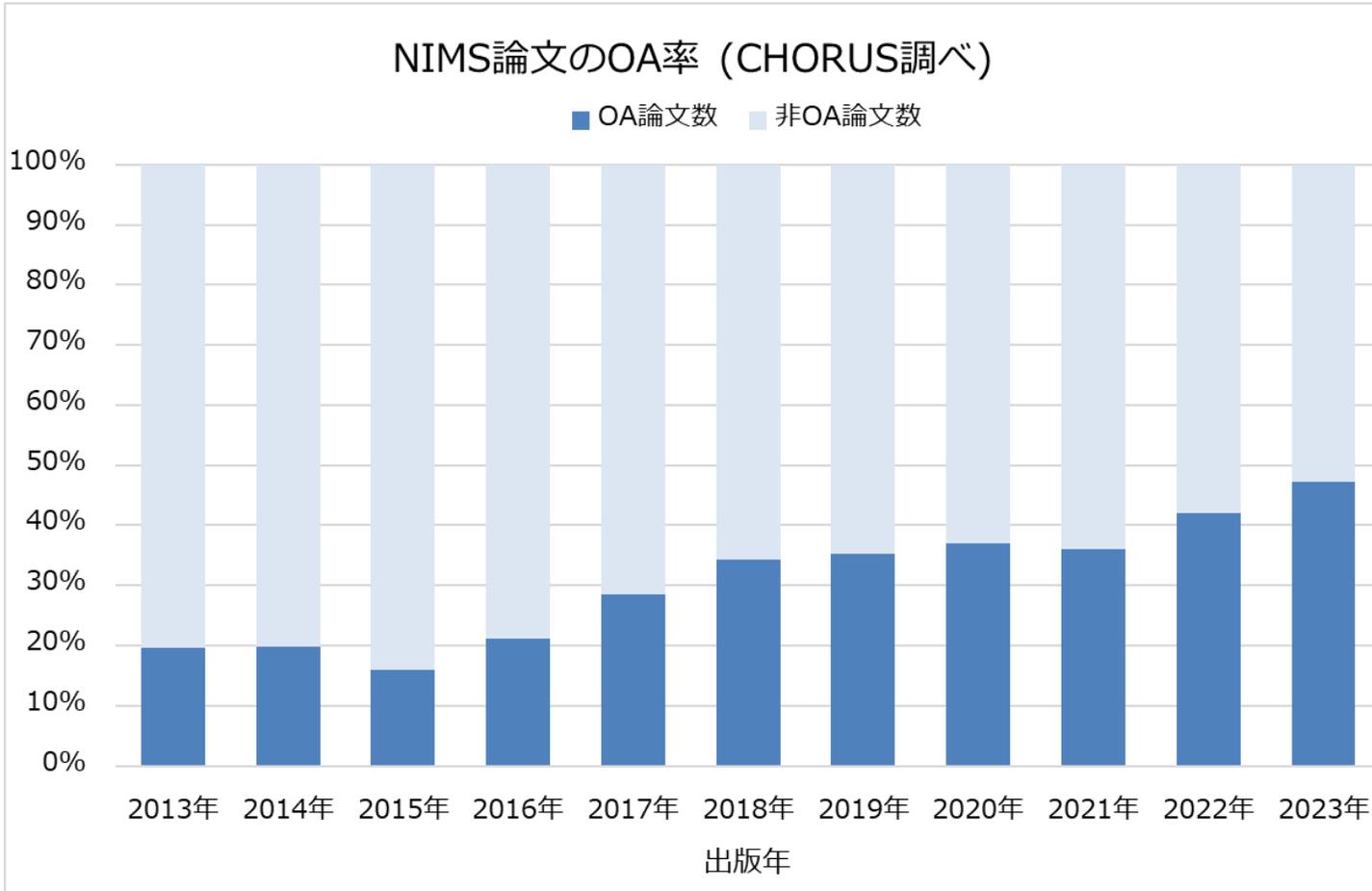
MDR運用担当



図書委員会

材料データリポジトリ委員会

NIMSのOA状況：CHORUSダッシュボードとScopusより



■2023年まで：任意

- セルフアーカイブ
- 業績システムとMDR登録システムの連携により、メタデータ入力を省力化
 - MDR登録に必須となる項目のほとんどは自動入力される。
 - 登録者は、本文ファイルと残りメタデータ（Description, Rights, Keyword）を入力する。

■2024年から：義務化

- MDR登録を研究職の評価と紐づける（MDRに論文を登録することで評価点を付与）
 - 「公開」ではなく「登録」義務とすることで、著作権上は公開できない成果に対応。
 - 義務化対象は全ての業績ではなく「論文」のみ。

■義務化に向けた対応

- 各研究センターでの説明会を実施
- MDR担当者の確認作業を省力化するためのシステム改修

■検討に向けた準備

●APC支出状況の把握

- 2022年度に会計システムの勘定科目が細分化されおおよその金額が把握可能になった。
※ただし「論文投稿/論文掲載/論文別刷」という科目のため、実際には別刷も含まれている可能性がある。
支払先の出版社はほぼ把握できるが、どのジャーナルかまでは把握できない。

●理事長の関心

- きっかけ：『科学新聞』2023年6月2日一面記事「研究論文 即時公開 2025年新規公募分から CSTI有識者会合」(<https://sci-news.co.jp/topics/7776/>)について、NIMS対応のレクを求められる。
- 転換契約の検討について承諾を得る。

■出版社との交渉

●2024年に向け4社からの提案

- 3社はOA論文数の上限あり。

●2社と合意

- どちらもOA論文数の上限あり。

■運用予定

●当初は著者にOA費用を負担してもらうことを検討していたが、先着順でのOA化で決着

- 理事長からの事務作業が増えることへの懸念により、先着順に方針変更。

Green OA

- システム改良により、登録作業やチェックにかかる時間は減りつつあるが、現在の運用体制で本当に対応できるのか？
 - リポジトリ担当者として思うこと
 - ・ 義務化によりGreen OAが進むことは喜ばしいが、著作権ポリシーの調査が本当にタイヘン。
 - ・ 一部出版社との転換契約により、Gold OAでサクッと登録処理できるようになることは、正直ありがたい。
 - ・ 即時OA対応は、現状では難しい。

Gold OA

- 転換契約は一部出版社のみのため、分野によってOA機会の不平等がある
 - 雑誌契約担当者として思うこと
 - ・ 転換契約により、NIMS全体としての支出は若干抑えることができたかもしれないが、OA費用の負担が（一部の著者は）なくなることで、出版と購読にかかる費用が、研究者から意識されなくなることは避けたい。
 - ・ 分野の不公平の解消に向けてやれるだけやってみよう。